

佳作

地域を愛すること

新潟県南魚沼市立塩沢中学校

3年 小田原 志優

あなたは旅行が好きですか。私は好きです。いろいろな場所に行き、いろいろな景色や物を見て、その場所の特産品を食べる。いつもと違う環境から、新しい刺激や知識を得られるのも旅行の魅力の一つです。中でも私が好きなことは、その地域の工芸品などの制作体験をすることです。

私は昨年、宮城県の鳴子温泉へ行ってきました。鳴子温泉は泉質が多彩で、源泉の多さは日本有数。千年以上の歴史を誇り、江戸時代から栄えたとされる温泉です。また、温泉街には江戸時代後期に木地師たちが広めたとされる、鳴子こけしのお店が数多くありました。私たち家族は、鳴子こけしの制作体験をしようとお店を探しましたが、多くのお店が閉まっている状態でした。ようやく見つけた体験所の店員さんによると、「栄えていた頃は多くの職人さんがいたが、どんどん減ってしまい、今は営業しているお店も少なくなってしまった。」とのことでした。かつては多くの観光客でにぎわっていた温泉街。人気のない店内を眺めながら、伝統を守ることの難しさを感じました。

日本には、私が知らない工芸品や、地域に根ざした文化がまだまだたくさんあります。今に至るまで、その地域の産業として栄え、脈々と途切れることなく、地域の発展を支えてきた伝統工芸品。世代の移り変わりとともに、存続の危機に直面しているものも多いと聞きます。つないできた伝統を終わりに向かわせてしまうことは、とてももったいないことだと思います。衰退の原因には、さまざまなことが挙げられます。人々の生活様式の変化による需要低下。職人の高齢化と後継者不足。若者の職業観の変化。職人になるまでに長い修業期間が必要なこと。代々受け継がれてきた伝統工芸品が、衰退していく現状を変えることができればいいのにと思いました。

私の地域である南魚沼市塩沢には、塩沢紬や本塩沢など、伝統的工芸品に指定されている織物があります。小学校のときに行った施設見学で、「今は生産者も消費者も少なくなり、衰退が進んでいる。」という話を聞いたことを思い出しました。自分の地域でも同じようなことが起こっていたことに気づきました。

ただ、先ほどの話には続きがあります。こけし屋の店員さんが、「でも、今は新しいデザインのこけしも作っていて、じわじわと第三次ブームが来ているんですよ。」と教えてくれました。愛する人がいる限り、なくなることはない。その象徴だと思いました。今は伝統に新しいデザインを加えたり、先進技術を取

り入れたりして、伝統に新しさが加わっているのです。また、ネットで世界に発信することで需要を高めている工芸品も数多くあります。自分の地域を愛し、再び発展させようと考え、行動した人がいたからこそできたことだと思います。

地域を愛し、文化を守ること。これは、次々と変化する社会の中で、受け継がれてきた人々の思いを守り、未来へつなぐことでもあります。精密で美しく、高品質で、心のこもった品々。そこには日本の「ものづくりの魂」が感じられます。それは世界に誇れるものでもあります。衰退を食い止め、伝統を未来へつなぐためにも、まずは地域を愛することが大切です。中学生の私たちができる第一歩は、地域の伝統や文化を知ることや、お祭りに参加することだと思います。さらに、制作体験や工場見学、SNSで広く世界にアピールするなど、時代に合ったアイデアを出しながら、より多くの人に発信していくことも大切です。もっともっと塩沢を愛せるように、私はこれからも、他の地域を見ることでも塩沢の良さを再発見したいです。そして、塩沢の伝統について学び続けます。豊かな自然、おいしいお米、優しい人がたくさん、この塩沢が大好きです。